

かべしんぶん

2017年1月号
(通算38号)

発行：平診9条の会

戦争法廃止を野党
と市民の共闘で！

いま問われているのは、日米安保条約や自衛隊の是非ではない。安保法制＝戦争法によって、憲法9条を踏み破った自衛隊の海外での武力行使——「海外で戦争する国」づくりを許しているのかだ！



2017年
新年明けましておめでとうございます
ございます

なります。

●平診9条の会で自分が発表している「かべしんぶん」を他院所の人が見ていて、「頑張っているね!」と言われると嬉しいです。

●世界中が平和になるのは遠い先かもしれないが、「戦争をしない」「平和をつなぐ」ことを今することが大切だ。自分が発表する場として平診9条の会があつていい。

●私の父は満州からシベリアに行っていたが、戦争の話はほとんど語らなかつた。自分が旭川にいたとき「マイナス30℃」と言うと「シベリアはマイナス50℃あつた」くらいしか聞いていなかった。戦争体験者は他人には話せないこともあつたのだと思う。人としてやってはならないこともやつたのでしょうか。

●若者は戦争の時、何があつたのかを知らない。だから自宅に訪問し直接「聞くこと」は大切だと思う。再び戦争する国にしないために。

●「戦争体験を聞く」は考えるきっかけになつた。患者さんから話を聞くことはとても大切だと思ひます。

●今年あまり参加できなかったけど、来年はもっと参加します。

12月19日、今年最後の平診九条の会運営委員会を13名の参加で開催しました。戦争体験を聞く11回目を看護師の硯 美穂すずり みほさんが報告。続いて、工藤祥樹事務主任が、「十月に芦別で自衛隊の演習が行われる」との報告がありました。さらに、道央友の会新聞新年号 新春座談会」を囲んで、「この一年を振り返って」青年の役割」について討論しました。

参加者の一言発言より

●いつも、若者の発言はいいなと思ひます。「戦争体験を聞く」もすごくいい、大正生まれの患者さんに会うと嬉し

●戦争体験を聞く「ミニ学習の講師」を担当して、主体的に9条の会に参加することができた。戦争を知らない「ことは幸せなことだが、戦争を知ることも大切だと思います。

●神奈川県の施設での殺人事件の「一言発言」ではしゃべることがなく苦勞しました。来年はミニ学習の講師を務めたいと思ひます。

●戦争体験を聞く「は、一人ひとり違ひますが戦争はしてはならない」ことでは一致します。日本が再び戦争の道を歩むことを阻止することが求められていると思ひます。

●今日の体験を聞く」を聞いて、戦争中に裕福な人もいたんですね。戦争・平和・憲法を勉強する大切さを学びました。

●今年は広島の原水禁大会と、平診9条の会に参加して、新聞やテレビのニュースを見るようになりました。原水爆をなくす署名を私はこれまで190筆集めました。

2017年からの平診9条の会の運営について舛田代表から提案があり、確認されました。

- ・ 月一回の運営員委員会を開催します。
- ・ 戦争体験を聞く」は継続します。新たに私の炭鉱遺産を聞く」を開始します。
- ・ テーマを決め、学習と討論を継続します。
- ・ 1月運営委員会のテーマは、「北方領土について考える」です。ミニレクチャーの講師は、事務職の三宅翔太郎さんです。

「友の会新聞新年号」を囲んで語り合いました
もっと語ろう！もっと学ぼう！

戦争体験を聞く 第11回

92歳女性Sさんから看護師の硯美穂さんが聞き取り、発表しました。(その要約です)



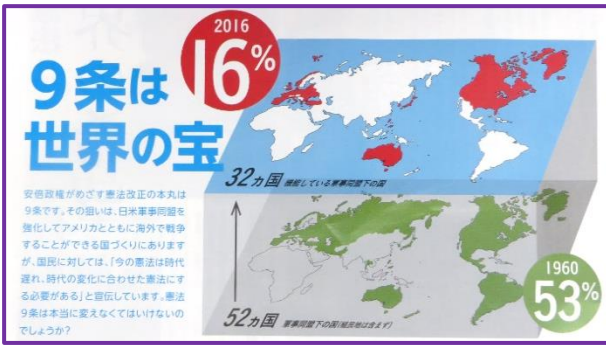
Sさんは、大正13年、6人兄弟の長女として礼文島に生まれました。幼少期を祖父母とくらし、父は、漁業組合の会長でも優しく、母に内緒でこっそりお祭りに遊びに行かせてくれています。その後、そのお祭りに一緒に行っていた人が父の決めた「いいなすけ」だった事を知りました。小さな島だった事、裕福だった事で戦争での苦労はなく過ごしました。お祭りに一緒に行っていた組合員のAさんは「お前は俺の所に嫁に来るんだ。親が決めたんだから仕方ない」と突然言われ、「なんで?」と思ったのですが、親が決めたことならしょうがないと嫌な気持ちは無かったそうです。結婚する前にAさんが兵隊となり、航空隊へ配属、偵察部隊で最後は片道分しか燃料の入ってない飛行機でアメリカ兵の偵察へ出ました。髪の毛とサラサラした石のような物だけが小さな箱に入れて礼文島へ帰って来たそうです。

お相手の顔は一度も見たことないまま、納得のいかないSさんでしたが、仲人をしてくれたのは伯父であり、「結納金を先にもらっているの嫁いでいかないと伯父が警察に捕まってしまう。とにかく一度嫁いでくれ。一週間したら迎えに行くから。」と叔母に言われ礼文島を出て旭川へお嫁に行きました。ただ、Sさんの心の中は、結納金・お祝い・母からのおこずかいがあるので、旭川へ行ったお金だけ持って逃げようという考えがあったそうです。嫁ぎ先のBさんも兵隊時代、航空隊だったのですが、Bさんは片道分の燃料を入れる役割だったそうです。少しでも多く燃料を入れて少しでも生き延びる道を作ったあげたかった。だけど、上司がずっと監視しているために決められた燃料しか入れられなかったと、涙を流して話をしてくれたことがあり、Sさんは言っていました。Bさんとは終戦後すぐだったため結婚式なんてあげられる時代ではなかったのですが、家の中に黒い幕を貼り結婚式をしたそうです。

芦別にも軍靴の音が!!

《概要》

陸上自衛隊滝川連隊が芦別市で演習
2017年1月17日から20日まで
隊員約200名、車両約40両



じん肺患者さんへのお願い

旧産炭地には「炭鉱遺産」は少し残っていますが、炭鉱で働いた方は高齢化し少なくなってきました。そこで、平診職員が「私の炭鉱遺産は何か？」を皆さんからお聞かせいただき、医療人・社会人として学んでいきたいと思っております。ご協力をよろしく!